

平成 28 年(2016 年)10 月 31 日

保護者の皆様

豊能町立光風台小学校

校長 松田 寿春

「平成 28 年度全国学力・学習状況調査」結果および今後のとりくみについて

10 月も終わりを迎え、秋色も深まってまいりました。保護者の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、本校の教育推進にご理解・ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、平成 28 年 4 月に本校 6 年生に実施いたしました「平成 28 年度全国学力・学習状況調査」の概況について、分析結果をまとめましたので、お知らせ致します。

全体的に本校の結果は、国語 A（主として知識）は、全国平均を 4.1P 上回り、国語 B（主として活用）は 4.7P 下回りました。算数 A（主として知識）は、全国平均を 4.4P 上回り、算数 B（主として活用）は 1.9P 下回りました。国語・算数共に、知識はある程度つけているものの、活用力について少し課題があるといえます。

今回の結果を通して、全国平均・大阪府平均との比較だけに止まらず、児童の課題は何か、どんな力をつけたらよいかを考え、とりくんでいきたいと思えます。

**【国語の結果から】**（○…プラス傾向の力 ●さらにつけたい力）

**《国語 A》「基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題」**

○領域・観点とも「話すこと・聞くこと」、観点「言語についての知識・理解・技能」は、全国平均を上回る結果である。

●領域・観点とも「書くこと・書く能力」「読むこと・読む能力」について全国平均を下回る結果であることから、「書く」「読む（読書）」に課題があるといえる。

**《国語 A 「主として知識」で課題が見られた問題例》**

●「目的や意図に応じて書く事柄を整理する」（問題 4：パンフレットを作るため、取材した理由として適切なものを選択）、「目的に応じて、図と表を関連付けて読む」（問題 5：文を読んで、登場人物の人物像を説明するために、根拠となる表現として適切なものを選択）、が特に全国平均を大きく下回り、本校児童の課題が見られた。

**《国語 B》「基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題」の課題**

●「目的に応じて、質問したいことを整理する」（問題 1：インタビューメモの作成・工夫）、「質問の意図を捉える」（問題 2：質問の意図として適切なものを選択）、「グラフを基に、わかったことを的確に書く」（図の結果を基に、書いた内容として適切なものを選択）、目的に

応じて、本や文章を比べて読むなど、効果的な読み方を工夫する」(問題 3: 複数の資料の内容を関連付けてまとめたものとして、適切なものを選択)、が全国を大きく下回り、本校児童の課題が見られた。

- 読む、書くに課題があるため、日常的に読む(読書)・書く練習、例えば授業感想一言メモを書くなどの日々の繰り返し習熟指導が必要と言える。また、いくつかの条件を重ね合わせて複合的に考える問題へのとりくみも必要と言える。

**【算数の結果から】** (○…プラス傾向の力 ●さらにつけたい力)

### 《算数A》「主として知識」の課題

○ほとんどの問題で、平均正答数は、全国平均を上回る結果である。

- 「単位あたりの大きさの求め方を理解している」(問題 4: 8 m<sup>2</sup>に 14 人の 1 m<sup>2</sup>当りの人数)、「示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことができる」(問題 9: 前に 10 人、後ろに 19 人、列に並んでいる全体の人数を求める式と答)、については全国平均を下回っていた。

### 《算数B》「基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題」の課題

- 領域「図形」で少し上回るものの、「数と計算」「量と測定」「数量関係」、観点では全領域で平均正答数が全国平均を下回る結果である。
- 「資料や図形についての技能」(問題 2: 40mハードル走タイムに、8.1 と 4 を当てはめ、目標タイムを求める式と答を書く)、「数量や図形についての知識・理解」(問題 3: 三つの式について、それぞれの式が何を計算しているかの説明文を選ぶ)、「数学的な考え方」(問題 4: 一人当たりの本の貸出数を求めるために、学校ごとの貸出数の合計のほかにも調べる必要のある事柄を選ぶ)が、全国平均を大きく下回る結果である。
- 「基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題」に取り組む必要がある。

### 【児童質問紙から】

#### ①家庭での学習意欲・態度⇒【今後の取り組みについて】A

- 「家で、学校の宿題をする」ほぼ全児童が宿題をすると回答し、「家で、予習する」「家で、復習をする」割合も高い。
- 「学校の授業以外に、平日、一日当たりどのくらいの時間、読書をするか」は、全国平均より高い。
- メール、インターネットなどは、あまりしていない傾向にある。
- 「学校の授業以外に、平日一日当たりどのくらいの時間勉強をするか」は、全国平均より低い傾向にある。

- 「テレビやDVDを見る」時間は、全国平均より多い。

## ②学校生活⇒【今後の取り組みについて】B

- 「朝食を食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝る」「毎日同じくらいの時刻に起きる」などは、上回っており、基本的な生活習慣はついているといえる。
- 「自分にはよいところがある」「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦する」は上回っており、自尊感情も高いといえる。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」は、全国平均と同じ程度だが、約9割の児童がそうとらえている。
- 「友だちと話し合うとき、友達の意見を最後まで聞く」「学校へ行くのが楽しい」「学級会などの時間に友だち同士で話し合ってきたりを決めている」「自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い意見をまとめている」「学校のきまりを守っている」が総じて低く、学校生活を楽しんだり集団で話し合うなどができにくい傾向にある。
- 「先生は、あなたのいいところを認めてくれる」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれる」も低い傾向にある。
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」も低い傾向にある。

## ③国語・算数・理科・総合的な学習の時間に関して⇒【今後の取り組みについて】C

- 「国語、算数の勉強は好きですか」については、いずれも全国平均を下回る結果である。
- 「総合的な学習の時間で学習したことが、普段の生活や社会に出た時に役立つと思う」「総合的な学習では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」が、いずれも全国平均を下回る結果である。

### 【今後の取り組みについて】

#### A 家庭学習や読書の充実・徹底

宿題は、家で児童自身が問題に向き合って学習する大切な課題と考えます。児童の事情により、宿題を学校でやる場合も見受けられます。また、家で読書する時間が昨年より伸びてきていますが、読書習慣の少ない児童もみられます。児童自身が、家で学習したり読書したりすることを子どものうちに身に付けることは、とても大切なことだと考えます。家庭で学習や読書する大切さを伝え、家庭学習や読書の習慣づくりを家庭と連携し、重要課題として取り組んでいきたいと思います。

また、テレビやDVD等の視聴時間やテレビゲーム等の時間を家庭で約束事として決め

る等、今後のご家庭でのご協力を期待します。

## B すべての児童にとって、楽しくてたまらない学校

これが本校の教育目標ですが、結果を真摯に受け止め、具体的にどうするのが児童にとって楽しくてたまらない学校になるのか考えとりこんでいきたいと思えます。特に大きな3つの柱の「頭づくり、体づくり、仲間づくり」のとりくみの中でも「仲間づくり（集団づくり）」について重点的に取組み、児童が安心できる居場所のある学級、学校を目指し、学力向上へつなげていきたいと思えます。

## C 授業の工夫

本校の授業研究主題に「自ら考え、伝えあい、学び合う力をつける授業づくりをめざして」を掲げ、「伝え合う力」を育てるために全教職員が取り組んでいます。しかし、国語・算数の勉強が好きだ、読書が好きだと答える児童の割合が低く、学びの楽しさを感じる授業や読書活動の楽しさがわかる授業をさらに研究していく必要があると思えます。

また今回、児童の「書く」「読む」について課題が見られたので、「全ての教育活動において、言語活動を重点においた授業づくりを進める」ことに更に一層取組み、国語科以外の授業でも、自分の考えをまとめて書いたり、学んだことの振り返りを書いたりすることにとりくみたいと思えます。

人権教育「集団づくり」の研究を、文部科学省の研究指定を受けて二年間行って参りました。本校の課題は一人ひとりの思いを汲み取りながら、集団をどう育てていくかという「集団づくり」が一番の課題であると思えます。今後も児童の課題に正対したとりくみをより一層積み上げていくとともに、これらの結果とりくみを念頭に置きながら、教職員一同、保護者・地域の皆さんと一緒に子どもたちの健やかな成長を見守り、支えていきたいと考えています。今後とも学校教育活動にご支援、ご協力よろしくお願い致します。